



株式会社 朱雀重量

京都府京都市右京区嵯峨二尊院門前
善光寺山町 7-44
URL : <https://suzakujyuryo.com>

個性を尊重し、皆で成長する、 重量工のエキスパート集団

建設現場への空調機器などの重量物の搬入や設置工事などを担う「重量工」という特殊な仕事。京都市に拠点を置く『朱雀重量』はそんな重量工として、冷設を手掛けている会社だ。社員がゆとりを持ってのびのびと働けるようにと環境を整えるなど、社員への熱い思いを持つ畑社長のもとを、本日はタレントの布川敏和氏が訪問。インタビューを行った。

——本日は『朱雀重量』さんにお邪魔しています。早速ですが、御社の事業内容からお聞かせいただけますか。

当社がメインに手掛けている「重量工」は、もともと鍛冶屋さんや足場屋さんが担当していた作業の一つで、裏方の仕事です。たとえばビルの室外機など1トン、2トンあるような重量物をレッカーで荷揚げしたり、夜中に鉄道部品を運んだりとかかなり特殊な技術が必要になってくる仕事なんです。搬入から据え付け、撤去や解体など重量工の仕事だけでも様々なあるんですよ。重量工は電気系、冷設系、空調系などいくつかの種類に分かれていまして、当社は主に冷蔵庫を中心に扱っています。大手コンビニエンスストアの冷蔵庫の搬入や、大手チェーンのスーパーマーケットの冷蔵庫の設置などを手掛けています。それらを使っていたくためには室外機も必要で、そちらも対応させていただいていま

す。最近ではドラッグストアさんも冷蔵庫商品を扱うお店が多いようで、冷蔵庫の依頼をいただくことが増えました。他にも物流倉庫などからお仕事をいただけるなど、ありがたいことだと思っています。——始めて聞く職業ですが、我々の生活の身近にある重要なお仕事なのですね。では、畑社長の歩みを伺っても？

私がこの業界に入ったのは約20年前のことです。学生時代はBMXという自転車競技に夢中になっていまして、今回の東京オリンピックで活躍した中村輪夢選手のお父様と一緒にチームを組み、京都府内では1位、2位を争うほどだったんですよ。17歳から23歳くらいまでは、勉強はほとんどせずにBMXに夢中で、大会などにも出て全国的に名前が知られるくらいでしたね。

——それはすごいじゃないですか。では、この業界に入った経緯とは何でしょう。

妻との結婚、子どもの誕生を機に「家族を守るためにもちゃんと働こう」と考えこちらの業界に入ったんです。そこで、今度は建築業界で社長になるという新しい夢を目指すことにしました。

——その夢を立派に叶えられています



代表取締役
畑 直樹

ね。では、独立当初はいかがでしたか。

10年経験を積んで独立した直後は、仕事のない時期もあり大変でしたね。最初に私が仕事をいただいたのは沖縄にあるスーパーさんでした。その当時はまだ沖縄には重量工をメインにしている業者さんが少なく、鍛冶屋さんや足場屋さんなどがこなしている状態でした。そこで遠く京都の会社だったにもかかわらず、「こういった仕事を専門にやってくれるところがあるようだからお願いしてみよう」と連絡をいただいたのです。それがもう10年ほど前のことです。そこでしっかりと迅速・丁寧を心がけお仕事をさせていただいたことが評価につながったと感じています。私共の作業は現場ではトップバッターで、その後に電気屋さん

などの業者さんが入りますが、そういった業者の方々からありがたいことに評価をいただいて、そういった積み重ねで何とかここまで来ることができました。——どんなに小さなお仕事でも、丁寧に作業されて信頼を勝ち取ってこれたことが窺えます。社長が仕事の上で大事にされていることは何でしょう。

心にゆとりを持つことですね。勤め時代お世話になった会社では、天候に月の収入が左右される少々不安定な状態でした。仕事の内容を考えると「雨なら仕事ができない」というのは仕方のないことですが、家族を養う身としてはそうした休みに別の仕事を入れざるを得なかったりと苦しい思いもしていました。そうした経験から、自分が社長になった時にはもっと安心できる、ゆとりある会社にしたいと思っていました。ですので、当社では月給制を採用しています。

——こういった業界では、かなり珍しいのではないですか。

そうかもしれません。しかし会社というのは私一人で回っているわけではなく、スタッフの存在がないと成り立っていきません。そんな会社にとって要であるスタッフたちが少しでも向上心をもって、安心して働ける環境を作るために、4年前の法人化の際に月給制にしようと決めたんです。

どれだけ休みがあっても最低限の給料は保証する形を作って、あとはそこに手当てを付けるというスタイルにし、夏季と冬季にボーナスを支給するようにしま

した。昨今コロナ禍で苦しい時ではありましたが、だからこそ保証されるありがたさを感じてもらえて、みんなはそれがやりがいへとつながっているようです。現在は事務員を合わせて7名で頑張っています。令和3年4月からはガーナの方も一人加わって、新しい風を取り入れながらみんなで頑張っています。——海外ご出身のスタッフさんもおられるのですか。

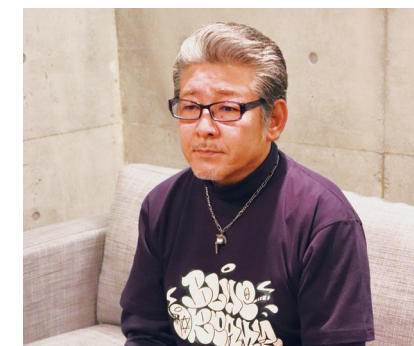
はい。人種も髪の色も肌の色も、私たちの仲間として働く上では何の問題もありませんからね。皆一生懸命に仕事を頑張ってくれていますから、文化、言語、価値観などの部分はお互いが歩み寄れる関係を作るしかないと思っています。今は日本人スタッフも外国人スタッフも英語と日本語を交えながら笑い合えるくらい関係になりました。皆、楽しそうに働いてくれています。

私は、どんな可能性もつぶしたくないと思っていまして、安易に見た目で否定せず、当社に服装や髪型に決まりはありません。また今年からは高校新卒も積極的に採用していこうと思っていて、実際に2人ほど来てくれたんですよ。

——それは嬉しいですね。最後に、今後の目標をお聞かせ下さい。

現在は沖縄と近畿一円で仕事を手掛けていますが、徐々に冷設関係のほうでは知名度も上がってきましたので、「冷設といえば『朱雀』」と言っていただけの会社になるために精進してまいります。

(2021年10月取材)



『朱雀重量』さんのカラーである紺色はカラスをイメージしていて、『どんなことがあっても、カラスのように泥臭く頑張りたい』という意味が込められているのだそうです。これからも実直に社員さんたちと共に頑張っていたきたいですね！」

布川敏和・談

BMXを通じて人間的に成長

▼22年間、重量工の仕事に携わってきた畑社長。そんな社長は青春時代をBMXに捧げていたようだ。進学校と言われる高校に進んだが、仲間と出会いマウンテンバイクを楽しむようになった社長。「4年間、BMXに打ち込みたい」と両親に話し、大学には進学せず23歳まで全力で打ち込んだそうだ。「その間に知り合った仲間たちとは貴重な経験ができましたし、全力で打ち込んだからこそ、『何事も基礎が大切』ということも学ぶことができました」と社長は笑って話してくれた。現在の仕事でも基礎を大事に、時には周囲の仲間と相談しシミュレーションをしながら現場を作り上げていくというプロセスはしっかりと息づいている。

▼そうした経験を経て社会人になった社長が大切にしているのが「見た目や今の能力で人を見定めない、否定しない」ということだ。「人って全否定されると誰でも悲しいですよ。ですから、私自身もそうですが見た目などにこだわらず自由にしています」。また「皆ゼロからのスタートですから、最初は何もできなくても当たり前です。今はできなくても、一緒に学んでいけばできるようになりますから」と社長。仕事の面では基礎をしっかりと教えて、悩みがあれば事務員も含めて、誰かに相談してほしい、と語ってくれた。そんな社長が目指すのは「常に笑顔のある現場」だという。時には冗談を言い合い、時には本音でぶつかり合い、一緒に成長していく——。そんな家族のような関係を築くことが社長の目標なのだ。

